



ひかり

令和6年3月19日
第12号



美しき旅立ち

3月12日、37名の卒業生が温かい拍手に送られて旅立っていきました。来賓の方々から「ええ式やったなあ。涙が出たわ。」など、有り難いお言葉をたくさんいただきました。前日の朝、7時過ぎから登校し、一生懸命に式場の準備をしてくれた1・2年生、皆さんのお陰で、卒業式がすべての人の心に美しい思い出として刻まれました。本当にありがとうございました。

さて、今年度最後の学校だよりは、卒業式の「式辞」を抜粋してお知らせすることとします。今一度卒業生が残してくれた足跡を思い起こし、共に人生の門出を祝おうではありませんか。

・・・（省略）・・・三年前の春、希望に胸を膨らませ入学を迎えた頃は、まだ世界は目に見えないウイルスの脅威にさらされたままで、不安な日々が続いていました。二年生になってようやく少しずつ「日常」を取り戻し、生徒会による「縦割りチーム活動」が始まりました。当時は、一つ上の先輩たちがリーダーとなり、皆さんはついていく立場でしたが、今年度はいよいよ最上級生としてチームを引っ張っていく役割を任されました。十月の音楽祭を終えた時の感想に1・2年生は、次のような言葉を書いていました。「先輩は、練習中にしゃべっている人がいるとその人に声をかけて、チームをまとめようと頑張ってくれました。自分たちに何が足りないかを教えてくれました。」皆さんは、「最上級生は最高に頑張る人であるべきだ」ということを身をもって教えてくれました。本気で頑張る姿は、後輩たちの心の目にしっかりと焼き付いています。



さて、郷土、財田町が輩出した偉人「大久保謙之丞」は、幼い頃より「山のふもとで暮らす財田の人々が曲がりくねった険しい道を歩き、苦勞しながら峠を越える姿」を見て育ちました。そして、いつしか「四国全体を発展させるためには整備された道路が必要だ」という考えに至り、道路建設についての知識と経験を積みます。自動車がまだ日本に一台もなかった時代ですから、道幅約13メートルの道路を作る計画に、田畑を潰される農民たちは反発しました。人々から「大げさなでたらめを言う『大ほらふき』』と呼ばれたこともありました。それでもあきらめず、根気強く人々を説得し、自分の財産をすべて投げ打って「四国新道（現在の国道32号・33号線の原型）」を現実のものにしました。謙之丞は「四国新道」の開通を見ずに42歳の若さでこの世を去ってしまいましたが、彼が人生をかけて追い求めたものこそが、今、現代社会で最も必要と言われている「ウェルビーイング（自分を取り巻くすべてのものの幸福）」だったのです。「幸福 happiness ハピネス」が「単に一個人が『自分は幸せだ』と感じる気持ちであるのに対して、「ウェルビーイング」は『個人を取り巻くものすべてが幸せであること』を指します。

謙之丞の志を受け継ぐかのように、現在、「ウェルビーイングな生き方」を追求している皆さんの大先輩を紹介します。30年ほど前にこの和光が丘を築立っていった彼は、今、

【裏面に続く】

滋賀県に住んでいます。つい2週間前のことですが、母校を訪ねてきて次のように語りました。

「先生、私は今、ゴミをエネルギーに変える仕事をしています。ゴミを燃やせば必ず二酸化炭素が発生します。どうにかしてゴミを燃やさずにエネルギー資源（電力）に変えられないかと考え、その技術を研究しているんです。昨年、やっと滋賀県に認められて琵琶湖の水草をエネルギーに換える調査事業に取り組みました。繁殖しすぎた水草が毎年数千トンもゴミとして処分されています。水草をゴミではなく資源として電力に換える仕組みを考えたところそれが認められたんです。」

彼は、大学を卒業してからの10年間、大きな会社に勤め、利益を上げることを求められ、がむしゃらに働いたそうです。そんなとき、ふと、「このままでいいのか」という大きな疑問が心を埋め尽くし、仕事を辞める決意をします。仕事を辞めてから、数か月間、インドや東南アジアの貧しい国々を巡り、「ゴミの山に囲まれて生きる子どもたちの姿を目の当たりにします。その時から「人々の暮らしを変えたい、目の前のゴミをどうにかして暮らしに役立てたい。」と考えるようになったそうです。

「先生、まだまだ解決しなければならない課題があるので、私の考えが面白いと言ってくれた京都大学の偉い先生と一緒に、今研究を進めています。」

そう語る彼の目は、希望で満ちあふれ、驚くほど輝いていました。

卒業生のみなさん、次は皆さんの番です。和光が丘を巣立つ今日から旅は始まります。世の中には、自分の利益だけを追い求める人もいれば、あの大久保謙之丞やゴミに命を吹き込んだ先輩のように、周りの人たちと共に幸せに生きることを望む人もいます。どうか胸を張って、自分が選んだ道を立派に突き進んでいってください。困難に行く手を阻まれたときは、焦らず立ち止まり、心の声に耳を傾け、どう生きるべきかをじっくり考えて、自分らしく歩みを進めてください・・・（以後省略）。



最後になりましたが、保護者の皆様、生徒のみなさん、令和5年度も残りわずかとなりました。これまで、本校の教育活動にご理解、ご協力をいただきありがとうございました。心より御礼申し上げます。